

## 令和5年度 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会議事録

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 日時  | 令和5年6月8日(木) 午後2時30分から午後4時  |
| 場所  | 豊橋市保健所 1階講堂                |
| 出席者 | 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会委員6名 |
| 欠席者 | なし                         |
| 事務局 | 豊橋市健康部保健所健康増進課             |

### 議題(1)豊橋市歯科口腔保健推進計画最終評価について

【資料1】

事務局 資料1説明。

A委員 目標値より悪化している数値は新型コロナウイルス感染症の影響を受けているようである。何でもコロナを理由にはいけないが、マスク生活が長くなり口呼吸が増えたりする中で、3歳児の不正咬合が減少しない要因にもなっている可能性がある。おとなは長年の経験から鼻呼吸ができるが、3歳児には難しい。また、マスク生活で口腔内の乾燥が進んで疾病予防に影響が出ていることも考えられる。

B委員 色々なところでマスクをしている弊害について議論になるが、マスクをしていることによってその弊害があるのではという懸念はあるものの、エビデンスとして学術的に示されている訳ではない。3歳児の不正咬合のどういったものが増えているかが分からないと、法則的なものを知るのは大変難しい。不正咬合は豊橋市に限らず、愛知県で見ても国で見てもどこも改善していない。改善は現実的には難しい。新たな指標にどう反映させて来るのか個人的に興味がある。70歳の歯科検診受診率が減少したのは、コロナ禍の影響を受けていると思うので、今後の改善に期待したい。

A委員 理由づけをコロナにすると、コロナのせいに出てしまうというリスクがある。しっかり見極める必要がある。

事務局 2歳児歯科健康診査の受診率はかなり減っている。妊産婦歯科健康診査の受診率は50%を超えてきている。周産期の時期について、こども保健課は関りがあるが、普及啓発については進んでいる認識である。歯周病は低出生体重児が生まれる原因になるとか、仕上げみがきが必要だということやむし歯が感染症であることは意識してもらっている。母子健康手帳の交付時の1人1人に伝えている。食生活については改善が必要であり、学齢期のおやつ習慣などリスクのある食生活を改善していく必要性を感じた。

事務局 依然としてマスクをしている児童生徒を見かけるが、コロナが5類になったことで少しずつマスクを外せる傾向になってきた。しかしながら、依然としてコロナやインフルエンザによる学級閉鎖の措置をとっている学校はいくつかある。修学旅行などの行事を滞りなく行いたいという思いから、コロナ対策とし

て休止していたフッ素洗口の再開に躊躇する学校もあるようだが、少しずつ実施に踏み切れるようになれば良いと考えている。

C委員 歯周病は炎症疾患なので、影響があるのは分かっていたが、そこまで手が回っていなかった。医歯薬連携事業を通して、何らかの形で啓発していければいい。

D委員 歯周病と糖尿病の関係について、まだまだ患者さんの意識が低いため、医歯薬連携事業を通して昨年度より患者さんに説明をする取組みを行っている。

A委員 医歯薬連携事業では多くの歯科医院が協力をして行った。なかなか日常の診療の中では出来ない取組みであった。歯科医師も内科の主治医先生と話す、いいきっかけになった。

E委員 コロナの影響もあり研修会もなかなかできなかった。  
9ページの要介護高齢者の指標③の評価がAであったのは、令和3年度に介護報酬の改定があり、デイサービス、デイケア、入居施設で栄養と口腔の加算をつけるようになった。デイサービスに通っている人は口腔の管理をしてことになり、所見があれば歯科受診を進めるようになった。

F委員 口腔機能について学ぶ研修会を支部で開催し、スキルアップを図っている。  
新しい分野も対応できる歯科衛生士を増やしていきたいと考えている。  
人材育成につながる活動を行っている。

事務局 シニアのための食とお口の健康講座や体操教室の中でも口腔体操を行っている。  
意識の高い方の参加が多い。新たな層にも関心を持っていただけるような取組を進めていきたい。  
介護保険関係事業者等連絡会で昨年度3回ほど口腔機能について職員さんを対象とした研修を行った。歯科衛生士さんによる教室・講座や研修を希望する声も多い。

## 議題(2)豊橋市歯科口腔保健推進計画(第2次)の策定について

【資料2】【資料3】

事務局 資料2、資料3説明。

事務局 健康とよはし推進計画においても、令和6年から17年で策定していく。  
少子高齢化、女性の社会進出、高齢者の就業拡大も考えられる。  
健康とよはし推進計画(第3次)においても、社会環境の質の向上を考えてICTの活用し、自然に健康になれるような仕組みづくり、高齢化を見据えた居場所づくりの考え方、社会参加を通してつながりを持つことでこころの健康を体現するような環境づくりを考えている。  
ライフコースアプローチ、自分たちの生活の習慣を振り返ってみて経時的にとらえた健康づくりを考えていかなければならない。

A委員 計画実施期間の年数があるので、将来的に社会情勢と乖離した計画にならないような計画となるとよい。  
人材育成についても、計画に盛り込めるとよい。